

豊明市地域包括ケア連絡協議会 代表者会 議事録

令和2年8月4日（火）

14：00～15：00

豊明市商工会館イベントホール

欠席：嘉戸委員、垣内委員、
武地委員、三浦委員

1. あいさつ

辞令交付

豊明市地域包括ケア連絡協議会設置要綱第5条に基づき会長・副会長選出。

- ・水野会長よりあいさつ
- ・牧副会長よりあいさつ

2. 議題

事務局より時間の関係上、議題の順番を変更し議題（2）から議題（1）と進行する。

○議題（2）各委員（団体）からの報告

資料に沿ってご報告

- ・豊明市介護支援専門員連絡協議会（資料2-1）
- ・豊明市リハビリテーション連絡協議会（資料2-2）
- ・豊明市看護連絡協議会（資料2-3）
- ・豊明市ソーシャルワーカー連絡協議会（資料2-4）
- ・豊明東郷医療介護サポートセンター「かけはし」（資料2-5）
- ・豊明市シルバー人材センター（資料2-6）

<質疑応答>

部会長：

2019年度のご報告通り、きわめて充実した活動となっている。

一方で、新型コロナウイルスの影響によって、対応を変化させていかなければならない。

かけはしからのご報告の中でもあったように、Youtube や teams などの DX の活用が新型コロナウイルスを乗り切る最大の武器と国で推奨している。

電子連絡帳もその中の一つであるが、DX の活用の検討は必然的に必要が求められている。

○コロナ禍での対応方法として 6 団体がこうなったらいいのでは、または困っていること、今年度の乗り切れる方法など専門職からアイデアはないでしょうか。

澤村委員：

ケアマネジャーとして、こうなったら大変ということとしては、在宅の利用者が新型コロナウイルス感染者だった場合ケアマネジャーが濃厚接触者となったら対応に困る。そうなった場合どのような対応

ができるか不安に思っている。

太田委員：

薬剤師会で訪問した患者で新型コロナウイルスの陽性者であったが、情報を知らずに、感染予防策なしの無防備で自宅に入った。訪問後に感染の可能性があるかと判明し、困った事例があった。事前に関係者などで情報共有が出来たらいいのではないかと。情報があれば、その時によって対応が変わる。

会長：

このような状況こそ、電子連絡帳での情報共有が重要となる。

近隣の介護事業所で連携し、シュミレーションしておくことも必要ではないか。

職員が減ると医療崩壊介護崩壊がおこる。体制が崩れることが医療崩壊や介護危機となる。

どのように連携するかシュミレートし、地域の力でどのようにカバーできるか、対応できるかと検証していくことが今後準備しておくことではないかと提案する。現状では、新型コロナウイルスの影響は3～4年は続くと思われている。そのことを踏まえて来年以降の活動や各連絡協議会との連携。

今後の対応のシュミレーションしておくことと方向性ができ、連携ができるのではないかと。

副会長：

顔の見える関係の中で、電子連絡帳での情報共有すると信頼できる情報となる。

会長：

新型コロナウイルスについて正しく知識を持って正しく恐れ、情報をみっておくこと。

例えば、飛沫感染でマスクの着用をしているが、一回の咳で出るウイルスは決まっている。数万個のウイルスが飛ぶが、実験データではそれより多い数で感染するので、通常まともに浴びても感染しない。

2mの距離が離れて数個から数十個のウイルスのみで、それだけでは感染しない。問題はそこから出たものが目の前に落ち、いろんなものにつき、それを誰かがさわって接触し感染広がっていくこと。飛沫だけを恐れることはなく、それよりは手洗いで、防ぐことが大切。水洗いでの手洗いで90%落とせる。手から消えてしまえば感染しない。ウイルスを死滅させるにはアルコールが必要である。それよりも、手洗いで防げる。ある一定の距離でたとえついても問題ないと科学的な根拠をもって説明していくことが重要。

都築委員：

リハビリテーションからも思っていることは新型コロナウイルスの影響により高齢者の外出が減っている。75歳以上の高齢者の外出頻度、運動量が減っており、みえない部分の体力低下の影響がある。しかし、体力測定もできない状況なので把握できていないことは今後の課題ともなっている。今後、新規の要介護の申請が増えることや要介護申請もできない社会的弱者が増えているので、救っていくにはネットワークを張り巡らせることが大切。

昨年立ち上がった栄養士連絡会のメンバーも参加してもらってはどうか。

会長：

栄養士連絡協議会の参加できるように検討していく。

日本の75歳以上のほとんどが低栄養となっている。低栄養を改善しないと感染症に負けてしまう。

副会長：

ステイホームはストレスとなり、外出自粛で体力低下してしまうので、ステイホームタウンぐらいに活動を広げておかなければならない。

○議題（１）第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に係るニーズ調査結果概要について

資料に沿って説明（資料1-1、1-2、1-3）

<ご意見>

会長：

第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に係るニーズ調査結果は参考となり、対策する必要がある。地域ごとに分析する必要がある。旧来言われている豊明団地と他の地域で困っていることは違う。さらに地域を細かく分析し対策をすると解決ができる。

骨折や肺炎や口腔ケアは地域の特性がある。地域の方を集めて指導していくと対策になるのでは。

直感的に知っているのはケアマネジャーが特性を知っておくことさらにいいことにつながる。

今後もアンケートの分析を進め、さらに豊明団地の階数によって違うことを検討し、対象をさらに絞って鋭く対策し、サービス提供できるようにすることが必要。

都築委員：

新型コロナウイルス感染が広がる前に7割の回収ができ、2回目の悉皆調査が実施でき、前回と比較し、経年変化をみることができた。次の3年後の生活の力が変わっているので、継続して経年比較していくことが重要となる。高齢者の外出や生活が変化しているので、次の3年後も悉皆調査が必要で、高齢者の生活支援のためにも把握し分析していくこと重要となる。

（3）その他

事務局：産業支援課より

消費生活センターがある中で、消費者安全確保地域協議会を地域包括ケア連絡協議会の役割の一つに役割に付け加えていただきたい。

消費者の件数が高齢者から相談増えていることもあり高齢者支援を実施していただきたい。

地域包括支援を担うケアマネジャー等と情報共有を図り、消費生活被害を防止するに努めるため。

会長：

高齢者の日常生活支援とフィットする内容となっている。反対意見がないため、組織化とする。

以上